

## 平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 西原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成30年4月17日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	42人	算数	42人	理科	42人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	49人	算数	49人	理科	49人
------	----	-----	----	-----	----	-----

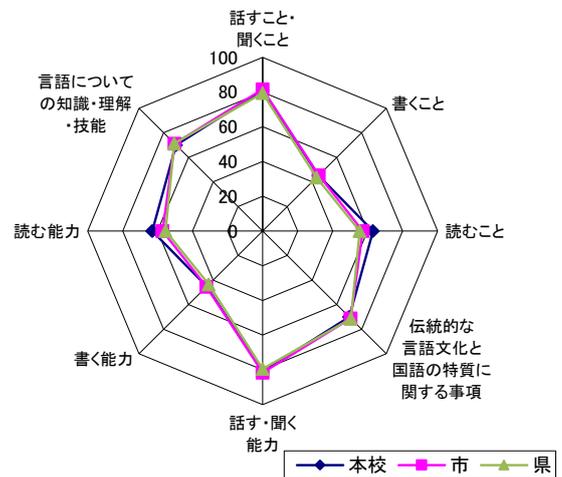
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立西原小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	81.0	81.6	79.4
	書くこと	45.2	45.4	43.6
	読むこと	63.1	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.0	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	81.0	81.6	79.4
	書く能力	45.2	45.4	43.6
	読む能力	63.1	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	70.0	71.1	71.4



## ★指導の工夫と改善

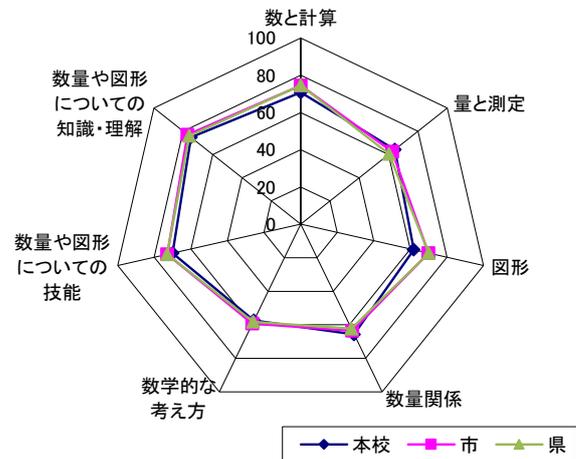
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○司会者の役割を理解し話し合いを進行する方法についての問題は、正答率が高かった。普段の話し合いの形式が「定着していることを示している。</p> <p>●話し合いの中で出てきた意見を整理する、という司会者の役割についての理解に課題が見られる。</p>	<p>・授業の中で話し合い活動の機会を大切に、活発な意見交流ができるよう指導していく。</p> <p>・様々な話し合い活動の中で、司会者の役割について再確認し、必要に応じて出てきた意見をまとめる活動を取り入れていく。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。</p> <p>○文章構成を意識して報告レポートを書く問題は正答率が市や県の平均より高く、内容のまとまりごとに整理してレポートを書くという意識がみられる。</p> <p>●メモや友達の意見を基に、報告レポートの内容を書く問題に課題が見られる。</p>	<p>・読み手にわかりやすい文章の書き方を助言しながら、作文を書かせるようにする。</p> <p>・書き上げたレポートや作文を友達と読み合い、友達のアドバイスをもとに文章を推敲する活動を必要に応じて取り入れていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県や市の平均より高い。</p> <p>○説明文の読み取りでは、キーワードを捉えて大切な事実を読み取る問題の正答率が高かった。</p> <p>●文章を読んで感じたことや考えたことを発表する問題に課題が見られる。</p>	<p>・文章を読んだ感想をノートに書き留めさせたり、体験的な学習の後に感想を交流させたりしながら、感想を持つことや表現することに慣れさせていく。</p> <p>・様々なジャンルの本を進んで読む機会を増やせるようにする。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、県や市の平均よりやや低い。</p> <p>○ローマ字による表現や国語辞典の使い方に関しては、よく理解できていた。国語辞典を使って調べる作業を授業の中で繰り返し行ったことが成果につながったと考えられる。</p> <p>●漢字の読みや書きは全般的に市や県よりも正答率が低く、課題が見られる。</p>	<p>・自主学習の中でも積極的に国語辞典や漢字辞典が使えるように声掛けをする。</p> <p>・漢字の読み書きや書き順・言葉の意味調べ等を授業の中で丁寧に扱うようにし、家庭学習でも進んで取り組ませるように支援していく。</p>

# 宇都宮市立西原小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.8	74.5	74.6
	量と測定	64.3	62.4	60.4
	図形	61.9	69.9	70.1
	数量関係	65.7	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	57.4	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	70.0	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	74.8	77.1	76.0



## ★指導の工夫と改善

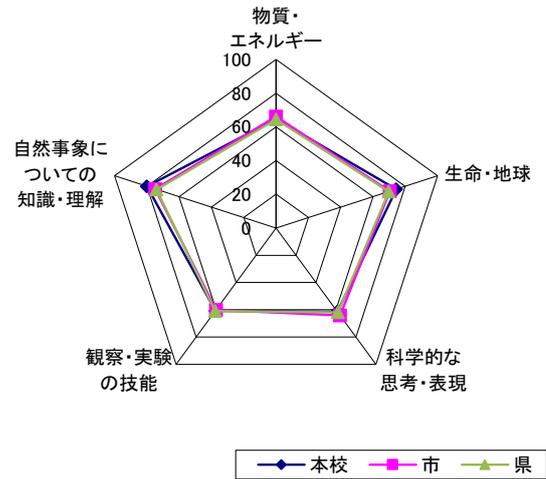
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県や市の平均より低い。</p> <p>○1mのテープ図を4等分した1つ分の量を表す図を選ぶ問題はよくできている。</p> <p>●3年までの基本的な計算問題やイベントに参加できない理由を書く問題に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度までの学習内容も含めて復習していけるよう、朝の学習や家庭学習の課題を計画的に設定し、基本的な計算の習熟を図っていく。</li> <li>・活用問題については、授業の中で自分の考えを図や数直線、式を使って分かりやすくまとめる活動を引き続き行っていく。</li> </ul>
量と測定	<p>平均正答率は、県や市の平均よりやや高い。</p> <p>○木の幹の周りの長さを測るのに適した道具を選ぶ問題はよくできていた。授業の際に具体物を使って学習した成果が表れたと考えられる。</p> <p>●ドッチボール1個のおよその重さを選ぶ問題に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重さの量感を育む活動については、今後も丁寧に指導していく必要がある。例えばおよそ100グラムだと思うものを見つけて重さを確かめる活動を通して、はかりの使い方に慣れるとともに、重さについての量感を育む活動を行っていく。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は、県や市の平均より低い。</p> <p>○与えられた1辺の続きをコンパスを使って正三角形を作図する問題は、よくできている。</p> <p>●円の直径や球の半径の長さを求めることや折り紙を2つに折って切った時にできる形を選ぶ問題に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を操作したり、作図したりする学習活動を多く取り入れながら、図形の性質を理解させることができるようにする。</li> <li>・図形の性質を確認しながら作図したり、様々な観点で図形の特徴を調べ整理したりする学習活動を丁寧に指導していく。</li> </ul>
数量関係	<p>平均正答率は、県や市よりやや高い。</p> <p>○文章問題を立式して解決したり、□を使った式に適した場面を選んだりすることがよくできている。文章問題を解く時に図や数直線を使い問題場面を捉えてから立式することを授業で行ってきた成果であると考えられる。</p> <p>●棒グラフを見てわかることや目盛りの異なる2つの棒グラフを比較することに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章問題については、今後も引き続き、問題場面の把握をしっかりと行うようにする。</li> <li>・資料の分類整理の指導では、理科や社会等の教科の授業でも、グラフを正確に読み取れるよう、その都度算数で学習したことを振り返りながら丁寧に指導していく。</li> </ul>

# 宇都宮市立西原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.6	66.1	64.4
	生命・地球	74.4	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	61.5	64.1	61.9
	観察・実験の技能	60.7	60.2	61.0
	自然現象についての知識・理解	79.9	74.8	74.0



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均よりやや低い。</p> <p>○「電気の通り道」「光のせいしつ」の問題では、「自然現象についての知識・理解」の正答率が高く、県や市の平均正答率を大きく上回る問題もあった。実験器具の使い方を何度も確認し、繰り返し実験を行ったことが正答率が高かった要因であると考えられる。</p> <p>●「風やゴムの働き」では、「科学的な思考・表現」に課題が見られた。また、上位層と下位層の平均正答率に差が見られた。与えられた図からデータを読み取り、考える力が不足していると考えられる。</p> <p>●磁石の性質を基に口を閉じる方法が分かる設問では、観察・実験の方法について、文章の意味を読み取れない様子が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験をする際には、正確に結果を計測するためのポイントや、安全に実験するためのポイントを確認し、繰り返し実験することで実験器具の正しい使い方や実験の方法などの知識の定着を図っていきたい。</li> <li>・風やゴムの働きの授業において、文や図を用いて、結果をまとめる活動を重視し、物質の特徴やエネルギーの法則などについて理解できるようにしていく。また、読み取ったことから問題にあった答えができるように授業の中で、グループ学習や個別学習を取り入れて繰り返し学習する。</li> <li>・磁石の性質を基に口を閉じる方法が分かる設問は、演示実験を行い、具体的に分かりやすく指導することで補足する。</li> </ul>
生命・地球	<p>平均正答率は、県や市の平均より高い。</p> <p>○「昆虫と植物」「身近な自然の観察」「大地と地面の様子」それぞれの内容においても県や市の平均を上回っている。児童の興味・関心を生かした授業が図られ、学習意欲の向上につながったと考える。</p> <p>●昆虫の体の色とすみかとの関係について考察する設問や記録から日なたの温度計を選び、その理由を説明する設問に課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して、見通しや目的意識がもてるように関連のある生活経験や既習事項を想起させたり、考えるヒントとなる素材を与えたりして実験や観察を行っていく。</li> <li>・理科で学習する言葉について、定着が図れているので、キーワードを示すなどヒントを与え、自分の考えを書いたり、発表させたりして理由も詳しく話せるように意図的な指導をしていく。</li> </ul>

## 宇都宮市立西原小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

#### 【学びの基礎力】

○「自分には、よいところがある」「自分の行動や発言に自信をもっている」「自分はクラスの人の役になっていると思う」などの肯定的回答の割合が県や市の平均と比べて高くなっている。これは、児童が自己肯定感をもっていることの表れと考えられる。今後も、学習・生活面において一人一人が活躍できる場を設け、児童の努力を認め、励ます学習の展開を続け、自己有能感を高くもたせ、学びに向かう力とさせていきたい。

●「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」と回答した児童の割合は、県や市の平均と比べて低くなっている。自分の力で粘り強く取り組み、最後までやりとげた達成感もてるよう支援を重ね、意欲的に課題に取り組めるような教材の工夫に努めていきたい。

#### 【社会的実践力】

○「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」の肯定的回答の割合が、県や市の平均と比べて高い。困難な課題に対しても前向きに取り組んでいることがわかる。学んだことを生かし、課題に対して挑戦する姿勢を支援していきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定的回答の割合が50%で県や市の平均と比べて低い。発達段階や各教科に応じて、意図的・計画的に自分の考えを文章にまとめる指導に力を入れていき、自分の考えを文章に表すことに対する苦手意識をなくしていきたい。

#### 【学級力】

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と回答した児童の割合は、県や市の平均と比べ高い。授業中の話をきちんと聞くことの大切さをよく理解していると言える。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」などの肯定的回答の割合が、県や市の平均と比べて低い。各教科の授業でペアやグループでの話し合い活動を多く取り入れ、お互いの考えのよさに目を向けて聞き合えるようにしていく。

#### 【家庭学習力】

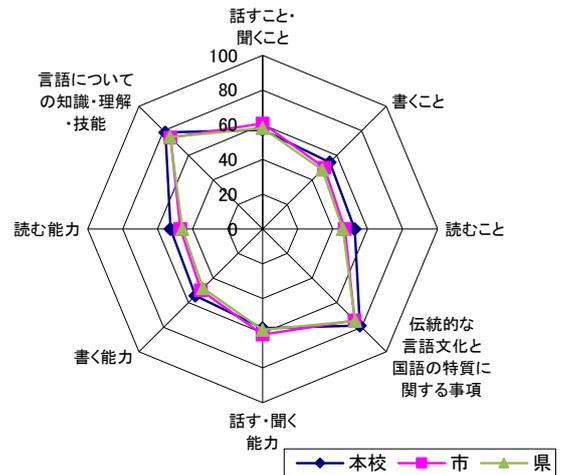
○「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」の肯定的回答の割合が、県や市の平均よりやや高い。毎日、家庭学習を行う習慣を今後も続けられるよう、保護者会等で家庭学習への協力をお願いする。

●「家で、学校の授業の予習や復習をしている」の肯定的回答の割合が、県や市の平均と比べて低い。発達段階に応じて家庭での学習の仕方や内容について児童に指導していき、基礎的・基本的な学習の習熟を図れるようにする。

# 宇都宮市立西原小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	57.1	60.8	58.1
	書くこと	54.4	49.8	48.3
	読むこと	52.7	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.6	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	57.1	60.8	58.1
	書く能力	54.4	49.8	48.3
	読む能力	52.7	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	78.6	74.4	74.8



## ★指導の工夫と改善

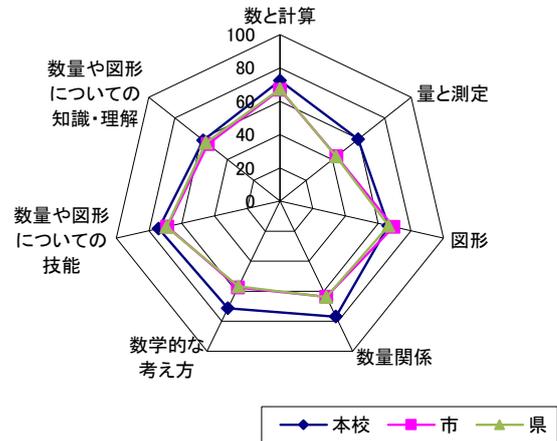
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県や市の平均より低い。 ●話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話すことや、司会者の役割を理解し進行する問題に課題が見られる。	・自分の意見と比較しながら話を聞いたり、討論で自分の決めた立場に沿った主張をしたりする活動を意図的に取り入れる。 ・学級活動における話し合い活動など他教科等とも関連付け、司会者や提案者の役割をそれぞれ果たしながら、相手が言いたいことを聞き取ったり、意見の共通点と相違点をまとめたりする経験を積むようにさせる。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○文章の見出しを読んで、大まかな内容をつかむことができている。棒グラフや折れ線グラフなどグラフごとに表す意味が異なることを理解できている。 ●表の数値を読み取り、その説明の一部としてあてはまる文章を選ぶという問題に課題が見られる。	・資料から読み取ったことと、そこから考えたことにつながりがある文章を書くことができるように作文指導をしていく。 ・3・4年生の学習を通じて、題名や見出しに合った文章を書くことや、文章に合った題名を選んだり考えたりすることを大切に、題意に沿った文章を書けるようにしていく。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○段落の要点を捉えて要約したり、中心となる語や文を捉えて読む設問の正答率が市や県の正答率を10ポイント以上上回っている。 ●物語を読み、叙述をもとにして特徴的な描写をとらえることに課題が見られる。	・説明文の指導では、中心となる言葉や文章に注目して要点をまとめたり、形式段落が他の段落とどのように関わっているかに注目して図に表したりする活動を意図的に取り入れる。 ・物語文の指導では、叙述をもとに状況を把握し、登場人物の心情の変化を、地の文や行動、会話などと関連させながら捉えられるよう指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○ローマ字の読み取りがよくできている。 ○漢字の部首・慣用句の理解がよくできている。 ●漢字辞典の使い方に課題がある。 ●漢字の読み取りや書き取り、画数などの問題に、課題がある。	・新出漢字を学習する際に、漢字辞典を使う機会を増やし、「部首索引」「総画索引」の調べ方に慣れさせる。 ・漢字練習をするときには、音読み・訓読み・学年が上がって読み方が増えた漢字など、たくさんの読み方を確認できるように練習方法を示す。また、間違えやすい漢字を小テストなどを通して確認し、正しく書けるようにしていく。

# 宇都宮市立西原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	72.4	66.9	67.4
	量と測定	59.6	43.2	43.0
	図形	66.3	69.4	66.5
	数量関係	77.0	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	71.3	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	74.1	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	58.5	54.9	56.4



## ★指導の工夫と改善

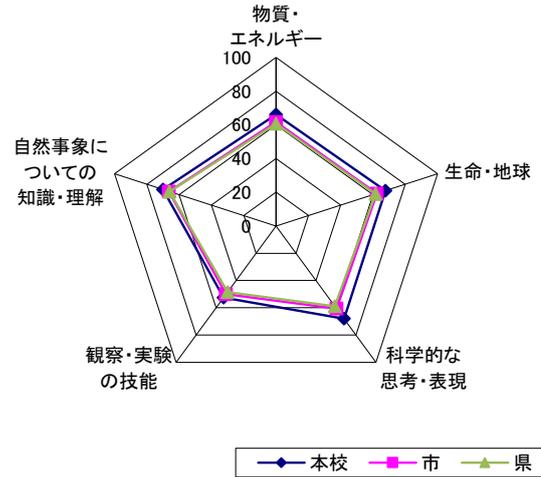
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県と市の平均より高い。</p> <p>○小数の減法の概算の数値を選ぶ設問や小数－小数、帯分数－真分数の計算はよく理解されていて、平均正答率が高い。</p> <p>●1.8は0.01を何個集めた数かを選ぶ設問には課題が見られる。</p>	<p>・今後も計算の反復練習を行い習熟を図っていくとともに、小数の指導の際には、数直線や図を用いることで数の大小などが視覚的に捉えられるような工夫をして、概念の定着を図っていく。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、県と市の平均より高い。</p> <p>○1mの正方形の辺に1cmの正方形が何枚並ぶか求める設問や図をもとに180°より大きい角度の求め方を説明する設問では順序立てて考え、それを整理することが概ねできている。</p> <p>●はがきのおよその面積を選ぶ設問には課題が見られる。</p>	<p>・図や表を文章に表したり、逆に文章を図や表に表したりする活動を取り入れるなどして言語活動の充実を図っていく。また、ペア学習やグループ学習を充実させ、他児童に説明する機会を設けていく。面積の単位と測定では、身の回りにある具体物の面積を基準として、それと比較することで、面積の大きさの見当を付けられるようにしていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均とほぼ同じだが、市の平均より低い。</p> <p>○平面上にあるものの位置を表す設問の正答率は、県・市の平均を上回っている。平面上にあるものの位置を表すために、横・縦の二つの要素が必要であり、示された表現方法を基に、順序にも気を付けて正しく表現することができている。</p> <p>●与えられた2辺の続きをかくいて、平行四辺形を完成させる設問では、課題が見られる。</p>	<p>・図形のどんな特徴を使っているか、なぜそのかき方(かき順)でよいのか明確にして、作図の仕方を考えたり、説明したりできるよう指導していく。図形の定義や性質を確認し、かき方を考えながら作図できるように、全体で再度丁寧に復習する。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、県や市の平均より高い。</p> <p>○どの設問においても県や市の平均正答率を上回っている。</p> <p>●棒グラフと折れ線グラフの関連性を読み取る設問では、課題が見られる。</p>	<p>・はじめに棒グラフと折れ線グラフ、それぞれから読み取れることを確認し、そのうえで2つのグラフの関連性について考えることができるよう指導していく。他教科とも関連を図り、身のまわりの折れ線グラフの特徴や工夫を見つけることで、習熟を図りたい。</p>

# 宇都宮市立西原小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.1	61.7	60.7
	生命・地球	67.7	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	68.0	60.6	58.9
	観察・実験の技能	52.6	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	70.0	66.3	66.0



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、県や市の平均より高い。</p> <p>○「空気と水の性質」「金属・水・空気と温度」の問題では、「自然事象についての知識・理解」の正答率が高く、県や市の平均を大きく上回る問題もあった。観察や実験を通して得られた結果を、表やグラフなどにまとめたことが要因であると考えられる。</p> <p>●「電気の働き」では、「科学的な思考・表現」に課題が見られた。電池のつなぎ方とおもりを引き上げる時間を関係づける力が不足していたと考えられる。また、「電気の働き」以外でも、2つのことを関連付けたり、結果を見通して実験を構想したりするような活用問題を苦手とする傾向が見られる。</p>	<p>・今後も実験や観察で得られた結果を、表やグラフなどにまとめていく活動を重視していき、自然事象についての知識・理解の定着を図っていきたい。</p> <p>・観察や実験の際には、児童の予想を基に実験方法を工夫するなど主体的問題解決の活動を取り入れて、まとめて自分の考えを記述するときに、現象の変化とその要因とを正しく関連付けられるようにしていきたい。</p>
生命・地球	<p>平均正答率は、県や市の平均より高い。</p> <p>○「人の体のつくりと運動」「季節と生物」「天気の様子」の問題では、「科学的な思考・表現」や「自然事象についての知識・理解」の正答率が高く、県や市の平均を大きく上回る問題もある。「天気の様子」の気温の変化から天気の様子を推測し、理由を説明する問題では正答率が高かった。児童にとって身近に感じられる分野であったことが要因であると考えられる。</p> <p>●「月と星」の問題では、1日の数時間ごとの月の動きを方位で表す問題の正答率が低い。月の動き方と方位との関係の理解が十分ではない。</p>	<p>・理科で学習した内容を、児童の日常生活の場面に当てはめて考えさせることが大切である。今後も継続して指導していくようにする。</p> <p>・月の動き方と方位については、映像教材を利用したり複数回観察をおこなったりして理解の定着を図っていきたい。学習した内容を生活場面に適用して考察することは、理科の有用性を感じる上で非常に重要である。</p>

# 宇都宮市立西原小学校 第5学年 児童質問紙調査

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

### 【学びの基礎力】

○「家の人と学習について話をしている」の肯定的回答の割合が市や県の割合を10ポイント程度上回っている。学年だよりを通して各教科の学習内容を詳しく紹介している成果であると考えられる。

●「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答が79.6%であり、県や市の平均よりも10ポイント程度低い。各教科の学習においてキャリア教育に系統立てて取り組んでいるが、引き続き継続して学習していく必要があると思われる。

### 【学びに向かう力】

○「先生は学習のことにほめてくれる」の肯定的回答の割合が95.9%で市や県の割合を10ポイント程度上回っている。褒めて伸ばす指導を今後も継続していきたい。

●「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定的回答の割合が市や県の割合を10ポイント程度下回っている。根気強く課題に取り組むことを指導しつつ、意欲が掻き立てられるような教材の工夫に努めていきたい。

### 【社会実践力】

○「本やインターネットを利用して勉強に関する情報を得ている」の肯定的回答の割合が市や県の割合を10ポイント程度上回っている。各教科や総合的な学習の時間などで情報化社会の中で必要なスキルを身に付け、実践している様子が見られる。継続して伸ばしていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」について、65%の児童が「はい」「どちらかといえば、はい」と回答している。発達の段階や教科の特性に応じて、教師が意図的・計画的に自分の考えを文章にまとめる指導に力を入れていく必要がある。また「自分のよさを人のために生かしたい」「誰に対しても思いやりの心をもっている」「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」の肯定的回答の割合が市や県の割合を10ポイント程度下回っている。各教科や道徳の授業など中心に心の教育を継続的に行っていきたい。

### 【学級力】

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答の割合が、児童の約9割で市や県の割合よりも上回っている。各教科の学習において、積極的に意見や考えを出せる学級の雰囲気が常日頃からあるからだと思う。

●「授業で分からないことがあると先生に聞くことができる」についての肯定的回答の割合は55.1%で、市や県の割合を20ポイント程度下回る。分からないことを気軽に、教師や友達に聞ける雰囲気のある学級を目指していきたい。

### 【家庭学習力】

○「家で、学校の宿題をしている。」の回答については100%である。「学校や塾で決められた宿題の他に、自分で考えた勉強をしている」の回答も6割以上を超えており市や県の割合と同程度である。家庭では、保護者の声掛けや協力により宿題や自主学習に意欲的に取り組んでいる児童も多い。今後も、自主学習の良いものや、継続できる方法などを紹介して充実した家庭学習を目指したい。

●「家で学校の授業の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定的回答の割合が、市や県の割合を18ポイント程度下回っている。各教科の復習やテストの直しの重要性や、自主学習をする時に復習をすることを伝え実践に繋いでいきたい。

### 【各教科】

○「次の教科などの学習は好きですか(社会)」の肯定的回答の割合は85.7%で、市や県の割合よりも20ポイント程度上回っている。また、将来のためにも大切だと思ってる児童は100%である。この学習意欲を他の教科にも持たせられるよう指導していきたい。

## 宇都宮市立西原小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを整理しまとめる力を育成するノートづくり</li> <li>授業の振り返り活動の充実</li> </ul>	ノート・板書・振り返りについて3年間校内研修を行ってきた。特に、自分の考えをノートにまとめさせ、お互いの考えを比較分類して学習課題を解決するような流れの授業を行ってきた。また、板書や授業の振り返りについても力を入れて研修を行ってきた。	質問紙に関する調査、教科に関する調査結果から、学年によって、学習指導の取組に差があることが分かった。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査結果から、漢字の読み書きや基本的な計算が十分に定着できていない児童が多いことが大きな課題であるとする。また、質問紙に関する調査結果から、学年によって学習指導の取組みに差があることも明らかになった。	基礎・基本の確実な定着に向けて学校全体で共通理解を十分に図った上で取り組む。	算数の授業では、個に応じた支援を行い、すべての児童が基本的な計算の仕方を理解し、正確に計算できるようにする。また、朝の学習では前年度までの学習内容の復習から計画的に実施していく。家庭学習では、毎日の授業の復習を中心に行えるように支援する。漢字の読み書きについては、小テストをこまめに実施したり、家庭学習の一つとして新出漢字の練習もその都度取り組ませていく。このような取り組みを校内研修や会議、打ち合わせ等で繰り返し話し合ったり、確認し合ったりしていく。